

多様性に学ぶ、グローバル

文理融合の「ワンキャンパス」で 世界を広げる

全学部学科が一堂に集うワンキャンパスでは、さまざまな専門分野を志す学生が、共通の教育方針のもと「文理融合」の環境下で専門分野を相互に深め、新たな価値観で社会の課題解決に取り組んでいくことが期待されています。また、時代の変化とともに、世界と日本の距離は確実に近くなっており、日本にいながらにしてグローバルなコミュニケーションが必要となりつつあります。外国に行かなくても、あなたのすぐそばに「グローバル」な環境は存在し、国際感覚は誰しもが身につけるべき教養となっていく今後を見据え、英語が話せるという言語理解だけに留まらない質の高い国際教育で、グローバルに活躍できる人材を育成していきます。社会の変容に柔軟に対応し、多様性を受け入れ、広い世界に視野を向けた先の出会いが、知的創造の糧となる。新しい時代を生きる学生の、可能性が広がる「ワンキャンパスライフ」が始まっています。



TSUCHITOI CAMPUS 土樋キャンパス



9学部15学科が一堂に集う都市型ワンキャンパスがめざすもの

地域と共創する、社会連携

市民に開かれた 都市型キャンパス

五橋キャンパスは、校門や塀がなく、地域の方々にもご利用いただけるホールやカフェテリアなどが設けられています。街とつながるキャンパスで、学生が他学部の友人や市民の方々とさまざまな交流を重ねる中で、広い視野を養い、自身や地域の新たな可能性を開くことを期待しています。



1万1千人が一堂に集う 「ワンキャンパス」が実現する未来

東北学院大学は、東北における最大の私立総合大学として、138年の歴史の中で約20万人の卒業生を社会に輩出してきました。経営者も非常に多く、その数は全国で35位(※)。活躍する卒業生がハブとなり、地域や企業と連携して社会の課題解決をめざす社会連携教育の充実を担ってきました。2023年度に仙台市中心部に五橋キャンパスが開学し、土樋キャンパスと一体化したワンキャンパス体制が整備された現在は、同キャンパス内「未来の扉センター」が主体となり、その取り組みはさらに広がり、

加速しています。都市機能と交通利便に恵まれた立地は、学生の交通アクセス・情報アクセスの多様化につながり、教育研究を活性化。企業や自治体、地域と連携して社会の課題解決に実践ベースで取り組むに当たり、ワンキャンパスは非常に優れた環境であると言えるでしょう。また、広く市民を受け入れるオープンスペースを多く備えた五橋キャンパスは、人と人をつなぐ新たな街の交流拠点としても、機能し始めています。

※「大学ランキング2024」(朝日新聞出版)



五橋キャンパス ITSUTSUBASHI CAMPUS